

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おゝさと

第59号

(題字は支部長)
令和7年8月1日発行 者
神谷 為 義

還暦の退職校長会

支部長 神谷 為義

埼玉県退職校長会は
昭和四十年
三月、二百
四十余名で

結成され、同四十三年四月に支部規約を制定して現在のような組織が確立しました。結成から数える
と今年はちょうど六十年目で年度末には六十一年度目、つまり還暦を迎えることになりました。

六十年前の昭和四十年は、基礎学力の充実や科学技術教育の向上を目指した小学校学習指導要領が実施されて四年たったころです。その後さらに教育内容の増加で詰め込み教育が批判されると、昭和五十五年ころからゆとり教育へと変わり、後に完全週五日制が実施されると、またそれが批判されるという具合で、平成二十三年ころから脱ゆとり教育となり今に至っ

ています。この六十年間だけでもじつに大きな変化です。また、今は個別化や多様化の対応と情報リテラシーの向上をねらいとしたデジタル教科書の扱いも大きな課題になっています。

主に教育内容を中心に振り返ってみましたが、課題はそれだけではありません。労働者の働き方が見直されるなかで教員のそれも改革が叫ばれています。過剰労働は若い人に敬遠されて、教職希望者も減少しているといえます。国は教職調整額を段階的に10%に引き上げると決めましたが、それがまた超過勤務の固定化にならないかと心配されています。

このような現状をみますと、教育現場が荒波に揉まれてしまい、教師と子どもとの豊かな関わり合いが疎かになってしまっているのではないかと心配になります。教師の見つめるものは子どもではなくパソコン画面という話も聞きます。先生方の中にはそんなふうに見える方もおられるのでしょうか。

教育には変わりなく継続するものあり、それこそが大切なものです。もしそうであるなら、退職校長会も長い間の経験で築き上げた教育観や指導観を現場に伝えていく必要があるのではないのでしょうか。現場を離れても、わたしたちはまだまだ教育を離れてはいけなのです。いま日々行われている現場の教育や今度九回目になる学習指導要領改訂の動向などを注意深く見守っていききたいものです。

大里支部総会 報告

五月十日(土) 午前十時より小雨の中「深谷市中央公民館」にて、ご来賓と会員五十一名の参加で開催された。

開会式では、植竹豊支部長より挨拶があり、ご来賓として、深谷市教育委員会教育長片桐雅之様、北部教育事務所長齋藤直美様、埼玉県退職校長会副会長内田眞弘様から祝辞をいただいた。

続いて、昨年度高齢者叙勲を迎えられた二名の会員に記念品が送られた。また、新会員八名も紹介された。

挨拶では植竹支部長から、コロナ禍からの再出発として、大里地

方教育推進協議会を重視し、新たな一石を投じることができた。また、今年度も新会員を迎え百%入会できたことは、人間関係の構築に寄与することができた。

深谷市片桐教育長は、喫緊の課題として不登校対策をあげ、学びの多様化、教育支援等、大人だけの考えでなく、子ども達の考えも聞く姿勢を挙げている。

北部教育事務所齋藤所長は、重点課題として四つ、一学力向上二不登校対策三職員の不祥事防止四働き方改革、また教職員が働きがいのある学校創り、管理職の育成も挙げ、改革に向けて取り組んでいる。



埼玉県退職校長会内田副会長は、新井会長の言葉として、支部の事業が会員に見える、そして魅力あるものを進めてほしいと話された。

協議は、植竹会長の進行のもと進められ、提案されたすべての議事が滞りなく承認された。

(文責 松村行康)

随想

プレイヤーは楽しい

熊谷東 中村 朋子

二年程前のこと、楽器店に並ぶ様々な楽器を眺めていた。「あ、これ、やってみよう。」演奏したいとは一度も思ったことがない楽器に引き寄せられた。それはエレキギター。手に取ると中高生のよう

な気持ちで蘇り胸が高鳴った。しかし、かっこいい演奏への道は遠い。ギターメーカーのフェンダー社の調査によると、ギターの一年以内の挫折率は約九十%だそう

だ。その意味が理解できる。困難が次々に押し寄せ、諦めかけたこともあるが、何とか曲らしきものが弾けるようになってきた。

昨年、一年経ったので、音楽教室の発表会に参加した。ライブハウスのステージに立ち、推しのロックバンドの曲を演奏した。失

敗もしたが、こんなに楽しいことがあるのだと感激した。今年、ボン・ジョヴィの曲をノーマスで弾くことを目標に練習している。

また、歌を思い切りやってみたり、二年前合唱団に加入した。昨秋の公演で、フォーレ作曲「レクイエム」をオーケストラの演奏で歌った。荘厳な響きの中に自分がいるということに感謝し、音楽の素晴らしさを噛みしめた。公演後、合唱団は解散したので、この春から新たに、ア・カペラの合唱団に入り、無伴奏合唱の魅力に取り憑かれている。

教職にあった時は、教える立場で、自分がプレイヤーであることは殆どなかった。音楽指導はとも好きだが、プレイヤーも良い。音楽の世界は喜びに満ちている。プレイヤーを存分に楽しみたい。



薔薇I

吹き矢はじめました

熊谷中央 小林 明

「明ちゃん、一緒に吹き矢やりなさい」——平成三十年の初秋、Yさんの来訪からすべてが始まった。聞けば、四月から週一回、近くの自治会館で練習しているという。そこで、近所のO君、ゴルフの師匠U君を巻き込んで見学会に参加した。三人とも見事な「お・も・て・な・し」に魅了され、その日のうちに入会決定。振り返ってみると、ガキの頃から何かとめんどろを見てもらっているYさんが訪ねて来た時点で、すでに入会は決まっていたのかも……。

吹き矢を始めるにあたり、必要な道具は長さ百二十cmの筒、プラスチックフィルム製の矢、筒立て、矢入れ等。また、基本的な「作法」も身に付けなければならない。一

連の動作をスムーズに行うことがなかなか身に付かなくて……一苦労。

道具を揃え、基本動作を覚えたら、いよいよ的を狙って矢を放つ。的までの距離は七m（有段者は十m）。的の直径は二十四cm。深く息を吸い、「フツ」と強く吐き出し、矢を的に深く刺すことが大事。そして、突然その日がやってきた。弓道という皆中。吹き矢では「パーフェクト」。五本中の矢すべてが七点（半径六cm）を刺したのだ。五月の練習会での一コマ。「小林さんスゴイ」「やったね」——高齢者の黄色い歓声が上がったのは、言うまでもない。矢が的に突き刺さる爽快感や「パーフェクト」を追い求めて。今日も練習に励むのさ。身を正しく吹く矢検め初稽古



我が家の薔薇II

旅行不出来 雑感

熊谷西 来間 平八

妻が眼病を患い、医師から「やがて失明する」と予告された時、「それなら見えるうちに日本中、いや世界中を見ておこう」と殊勝な慰めを言って始めた旅行であったが、海外旅行は、八十四歳までに六十七回ほど実施したところでやめた。高齢化に伴い、長距離の飛行機旅が辛くなったからである。そして以後は国内旅行に専念することにしたが、これもコロナ禍のため中断せざるを得なくなり、国内ツアー百二十回ほどで一時中止となった。

その後歳月がたち、コロナ禍もやや落ちついてきて、旅行社の主催するツアーも再開されるようになったので、再度参加しようと考えた。そこで昨年、三泊四日のミステリーツアーに申し込んだ。ところが思わぬ事態が発生して、参加を見送ることになってしまった。理由は、私の老化により体の健康状態が悪くなったことである。

ひとつには、脊柱管狭窄症のため腰痛が起こり、歩くのが困難になったことである。杖について歩

いているが、長い距離は無理だ。それから夜間の頻尿がある。だから参加してもみんなと一緒に行動できるか自信がない。結局、参加をキャンセルした。

これからはもう二度と旅行はできないと思うと溜息が出る。今は旅行社から送られてくるパンフレットを眺めて、空想の旅を楽しみただけになってしまつて情けない。しかしこれが老いゆく者の人生というものである。唯々静かに余生を送つていこうと思う。

一瞬の輝きを求めて

熊谷南 飯島 修

ダイヤモンド富士を撮るために何回も山中湖に通っている。

太陽がキラッと光りながら富士山頂に重なる瞬間、ダイヤモンドのように輝き湖に反射する感動・絶景の瞬間を撮るためである。

いざ、ダイヤモンド富士撮影に。この日のスポットは、四時半頃にダイヤモンドが出現する長池湖畔。お昼近くに着いたが三脚がずらりと並び、場所取り合戦の始まり。待つ間、周りの人と写真を見せ合ったり、撮影場所を聞いたり、

撮影の裏話など、話している時間も楽しい。

ただ、上空の雲が気になる…。日の入りの時間が近づくにつれて、いやな雲が富士山にかかってくる。



ダイヤモンド富士

時間になつても頂上が見えない。今日の撮影も終了。自然との闘い、あきらめて家路につく。これを何回繰り返すことか。ベストの状態写真の撮れる確率は、三回に一回くらいである。撮れた時には一瞬の輝きに感動し、また来たくなる。撮った写真は、退職校長会写真同好会で色々な意見を頂き、撮影のための糧としている。これからも撮影に挑戦したい。

「ラウンドシステム」を導入した
小学校外国語授業の実践

熊谷北 長島 正雄

私は、熊谷市小学校英語専科指導教員として授業実践に取り組んでいます。中学校との連携を図り、教科書を三回繰り返し返して指導する授業を実践しています。

ラウンドⅠでは、ラウンドⅢで英語のやり取りができるように、やり取りで使う英語が入った教科書のストーリーの概要をつかむこと、ラウンドⅡでは、やり取りで使う英語が入った本文を様々な学

ラウンドⅢ
やり取りをタブレットに録画

習活動を通して、何度も出会わせ、「聞く、話す、読む、書く」ことができること、ラウンドⅢでは、自分のことを英語でやり取りができることをねらいにしています。授業では、児童が自信をもって自分の思いを自己表現できる授業実践を目指し、児童の視点に立って現実社会に存在する、本物の実践に可能な限り近づけたオーセンティックな学びができるように授業改善に努めています。

年間三回実施している外国語アソケットでは、「外国語への興味・関心度」と「外国語が好きですか」という二つの項目で児童の実態と変容を把握できるようにしています。また、「児童による授業評価」を学期ごとに実施し、教材の工夫、理解度に合わせた授業、話し合う・意見発表の機会等、七項目の授業評価を集計・分析し、授業改善に生かしています。アソケットの数値目標や分析結果は、自己評価シートの目標や方策、達成状況申告に生かしています。熊谷教育の充実・発展に貢献できるように日々授業実践に努めています。



教え子に贈る筑波山物語

深谷北 島崎 祐子

幡羅中学校の皆さん二学期もよく頑張りましたね。今日の終業式では「筑波山」のお話をします。晴れて風が強い日は利根川に架かる橋や土手から東にらぐだのコープの様な筑波山が見えます。私はつい筑波山を探してしまいます。岡山で双子のペアを組み県優勝し、大学でも軟庭がやりたくて筑波大に進みました。その四年間ずっとみていたのが筑波山です。だからやる気が出ない日でも筑波山を見るとぴりっとします。大学時代は関東大学リーグ一色で私達は五部(二十五位)という弱小チームでした。

ある日硬式の先輩がやってきて「軟式は監督もいない。コートもない。真剣にやるなら硬式だよ」と言うのです。同期女子はすぐに転向。私は何日も悩み「私は軟式をやる。二部まで上がる」と決めました。それは誰も成し遂げていない夢のような事です。部員は全国経験者は二人、あとは初心者ばかりです。すぐ一年が経ち、二年

では経験者も入り歯車が合い始め、私が主将の時には女子部員も三十名を超えて、次第に強くなりました。そして四年の秋三部優勝。二部との入替え戦は千葉柏コート。

私は三番手で勝利し、仲間と抱き合ってコートに倒れこんだ光景は夢のようで今なお誇らしい。思っただけで元氣や勇氣がでる宝物の四年間でした。だから筑波山を見るとぴりっとします。皆さんにとってこの幡羅中もそうなるって欲しい。卒業して幡羅中を見る度、前を通る度にあの頃は頑張ったな、支えあったな、あの先生に育ててもらったな。当時を思い出し自分を誇りに思い仲間に感謝できるような三年間を送って欲しいと筑波山の話をしました。私は大学で「やればできる」を学び、今もその言葉を信じていますが一人では決して頑張れなかった。私達はチームでした。皆さんには自分や仲間を誇りに思い、深谷で生まれ幡羅中で学んだことも誇りに思い、新たな令和を、たくましく生き抜いて欲しいと願っています。



本が読める 焼きいも屋UBUHI

深谷中 清水 隆

大学で出会った二人が退職を迎え、「今後何をしたいのか、何が出来るのか」考えた。受け継いだ土地や畑、これまでに読みためた本を活かせないか。現役の時、働くことに迫われ地域の人たちに支えられていた。何かお返しが出来たらいいな。考えた末、子供も大人もお年寄りも立ち寄れる地域の居場所をつくらうと、二人の思いがまとまった。

それから、今まで知らなかったことを調べ、セミナーや講習会に参加し、焼きいもを求めて長瀬・熊谷・茨城・銀座・川越・三芳町のいも街道・金沢など訪ね歩いた。さつまいも農家さんに相談にも行った。自宅物置を店舗に改装し、令和六年七月十五日「本が読める焼きいも屋UBUHI」をオープンした。

得たものは大きく、多くの人と楽しい出会いが待っていた。『こんな居場所が欲しかった。落ち着く。おしゃれ、子供も喜ぶ。楽しい。また来ます。』と来店者

の声に励まされる。さらには、多くの人の支援をいただき隔月程度でイベントを開催出来ている。

次から次へと人と人が結ばれ繋がっていく。自宅でゆつくり時間を過ごすだけでは得られない。好きな旅をするもよし。ゴルフをするもよし。そして、人と笑顔で語り合うのはさらによし。

これからも、本と焼きいものコラボで多くの人が触れ合える場所になると嬉しい。皆様のご来店をお待ちしています。 万謝
ぐ・う・かない、BUぶたない、HIひを大切にす



我が家の薔薇Ⅲ

M物産の同窓会

深谷中 菊池 正彦

「M物産の皆様こんばんは。茨城のFです。同窓会まであと一ヶ月ほどになってきました。参加の確認です。」というメールが届いた。M物産とは、文部省主催の教員海

外派遣の別名で私たちはそう呼び合っている。

私の行った文部省教員海外派遣は、平成十一年十一月十一日から二十六日までの十六日間。ブロック第五五二団マレーシアでの研修で、関東と新潟の各地から十八名が参加した。

薄れた記憶の中から当時の出来事が思い出されてくる。成田空港での前泊のホテルに、早朝妻から電話がかかってきた。母が急病になり行くことをやめることはできないか。帰ってきてくれと。すぐM団長に相談すると帰ることは難しい。勤務先の校長に確認してみてくれと指示された。そこで機内電話でO校長に連絡をした。すると文部省が主催の海外派遣は、帰国の手続きが簡単ではないこと、最後まで研修を全うすることとアドバイスされた。その他に励ましの言葉をいただいた。私の気持ちを汲んでくれた内容だった。これは、最後まで研修を全うすることが母への応援であると気持ちを切り替えることができた。また、盗難にあった団員の一人にお金を出し合い助け合ったことも思い出す。M物産の同窓会は、コロナ禍の

三年間休止となっていたが一昨年度から復活。思い出話に花を咲かせながらお互いに健康を確認し、また来年も開催すると約束した。今回の同窓会は、群馬の草津だそう。楽しみである。



別府沼公園

アサギマダラの飛来を願って

寄居 関口 葉子

秩父蝶を呼ぶ花の会の方々から、アサギマダラという蝶を飛来させるため、フジバカマの苗木を植栽する取組を、五月に勤務校で行いました。アサギマダラは、渡り蝶と呼ばれ、移動最長距離が二千里を超えと言われています。講話後、アサギマダラが好むといわれているフジバカマを、子供たち

が分担をして植えました。フジバカマは、古今和歌集や源氏物語にもその名が登場します。アサギマダラが秋にかけて飛来することを願って、世話をしました。

九月になると、淡いピンク色の小さなつぼみをつけ始め、十月には、いよいよ咲き始めました。そして、とうとうアサギマダラが学校に飛来しました。十センチ位の大きさで、淡い水色に透き通る部分が、黒と栗色で縁取られ、まだら模様になっていました。その美しい姿と優雅な飛び方に魅了されました。その後、天気の良い日には、見かけるようになり、子供たちは喜んだり、追いかけてたりして、飛来を楽しんでいました。

その後、役目を終えたフジバカマを使ったポプリ作りを、秩父蝶を呼ぶ花の会の方々と全校児童が行いました。陰干しをして、お茶パックの中に細かくした花殻や葉茎等を入れて完成させました。ハーブのような香りを、各々が楽しんで持ち帰りました。今年度も、アサギマダラの飛来を楽しみに、心待ちにしています。

新入会員の声

よろしくお願いいたします

熊谷西 渋谷 昌美

この三月で三十八年間の教員生活を終えました。今はこれまでに出会った子どもたちや先生方に、感謝の気持ちでいっぱいです。

ホッとする間もなく新しい立場での仕事が始まっています。

「我以外皆我師也」改めて、多くのことを勉強する日々です。

熊谷の子どもたちのために、全力で頑張つてまいります。引き続き、ご指導よろしくお願いいたします。

よろしくお願いいたします

熊谷東 木村 浩

三月に熊谷市立佐谷田小学校を役職定年となり、退職校長会に入会させていただくことになりました。三十八年間の在職中は、多くの皆様に支えられご指導いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

四月より熊谷市立富士見中学校と三尻中学校で美術教師として勤務しています。初任者以来の中学校勤務ですので、日々教材研究に取り組んでいます。今後ご指導のほどよろしくお願いいたします。

役職定年を迎え

深谷中 鳥羽 正人

三月末日をもちまして深谷市立大寄小学校で役職定年を迎え、この度大里退職校長会に入会させていただきました。

校長在職中に引き続き、お世話になります。

この四月からは、深谷市内の五つの小学校において、六人の初任者を担当する初任者指導教員として勤務しております。

これまでの教職経験を生かし、子供たちの明るい未来のために頑張りたいと思います。

よろしくお願いいたします

深谷北 森田 豊

三月に役職定年を迎え、引き続き特例再任用校長として深谷市立上柴中学校に勤務しています。

同じ学校、同じ役職での勤務で

すので、「退職」を実感することのない日々を送っておりますが、退職校長会への入会にあたり、多くの先輩方からお声がけをいただき、改めて教職生活の「節目」を感じるとともに、決意を新たにいたしました。

今後ともご指導よろしくお願いいたします。

心より感謝

深谷中 小林 義治

三十八年の教員生活のラストステージ三年間を、我が母校である深谷市立岡部中学校の校長として勤務できたことは、本当に教師冥利につくことであり、深谷市教育委員会に心より感謝いたします。コロナ禍、そしてアフターコロナの時代に迷走しながらも奮闘してきたことは、後々まで深く心に残る思い出となりました。

長きにわたり多くの先輩諸氏、同僚教職員の方々にご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

よろしくお願いいたします

深谷南 笠原 康男

三月に寄居町立男衾小学校を退

職し、大里退職校長会に入会させていただくことになりました。在職中は、多くの方々に支えていただき、お陰様で職責を全うすることができました。心から感謝申し上げます。

四月からは、寄居町サポートセンターでスクールソーシャルワーカーとして勤めております。これからも子どもたちのため全力で取り組みます。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

ありがとうございました

深谷北 栗原 孝子

お陰様で、三十八年間の教職生活を終わることができました。多くの方にご指導・ご鞭撻をいただき、いろいろなことを経験させていただいて、充実した教職人生であったと改めて感じています。本当にありがとうございます。

四月からは、母校で教職を目指す学生の指導や支援をしています。お世話になった皆様に、直接ご恩をお返しすることは難しいですが、次代を担う教員の卵たちに、ご恩を送れるように努めてまいります。



お世話になります

寄居 野口 泰明

令和六年度末、寄居町立折原小学校を役職定年となりました。

校長として在職中には、先輩の校長先生方からアドバイスをいただいたり、温かい励ましの言葉をかけていただいたりしました。そのお陰をもちまして、無事に校長職を務めることができました。誠にありがとうございます。

今年度から、新入会員としてお世話になりますが、在職中と同様に、今後ともどうぞよろしくお願いたします。



軽井沢散歩

叙勲者

高齢者叙勲(班別順)

熊谷班 野口 静男 様
深谷班 金井 賢治 様

地区だより

東武鉄道熊谷線

(妻沼線)の今

熊谷北 福島 裕

熊谷班北地区は、熊谷市妻沼地区、群馬県、栃木県在住の四十一名で構成されています。広範囲にわたる本地区の特色を踏まえ、三県を跨いで鉄道を結ぶうとした計画と変遷について紹介します。

かつて埼玉県北部を走っていた東武鉄道熊谷線。明治四十五年発行の「鐵道線路網縮圖」によると、足尾銅山から太田・熊谷・八王子を通って平塚に至る線路が計画されましたが、手付



「鐵道線路網縮圖」(明治45年)

かずのまま「局部未成線」となっていました。その後戦争により、太田市小泉の中島飛行機への輸送を目的に、軍需線として先ず熊谷・妻沼間が突貫工事で完成、さらに群馬県への延伸工事の途中で終戦を迎えました。

戦後、東武鉄道が一般旅客・貨物輸送用として営業を開始。通勤・通学の足として生活を支えました。熊谷駅から妻沼駅までおよそ10km、のんびりと走る姿から「カメ号」と親しまれてきました。自動車の普及により昭和五十八年五月三十一日、四十一年の歴史に幕を下ろしました。

廃線跡は一部「かめのみち」として整備され、残された部分は二車線の舗装道路となり、市内北部を縦貫しています。終点・妻沼には「カメ号」の実車が熊谷市立妻沼展示館に保存されています。

令和の時代を迎えた現在、県北と東毛地区の発展のため「利根川新橋」設置の動きが加速し、今後の動向が注目されています。

*東毛地区＝群馬県南東部を指し、桐生市・太田市・館林市を中心に構成されている。

(資料「写真にみる東武熊谷線」熊谷市立図書館編 平成四年発行より)



第二十七回 春季親睦ゴルフ大会

令和七年六月十日(火)、上里ゴルフ場で春季親睦ゴルフ大会を開催しました。

梅雨入りが発表され、雨が降ったり止んだりするコンディションにもかかわらず、ナイスショットを連発していました。

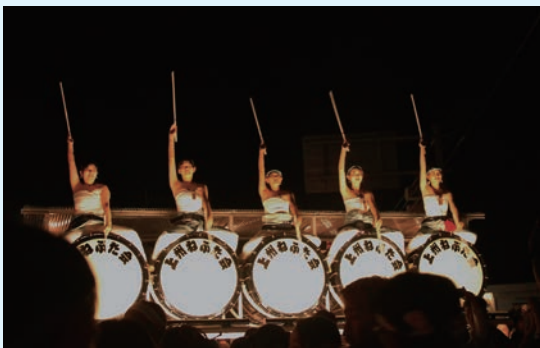
次回の秋季親睦大会は多くの方の参加をお待ちしております。

大会の結果は、次のとおりです。

- ・優勝 勝林 健次(熊谷)
- ・準優勝 関根 隆夫(熊谷)
- ・第三位 小林 晃一(熊谷)
- ・ベストグロ 島崎 一雄(深谷)

(文責 室岡 寛昭)

写 真



太田市「尾島ねぷたまつり」(組写真)
深谷北 増田 隆

みんなの広場

短 歌

昭和百年

寄居 木島 千恵

初春の光かがやき穏やかに
昭和百年の年となりたり

物のなき戦後をあれこれやりくりし
子ら育てたる母若かりき

「良く来たね」とふ父の声の耳にあり
逝きて幾年たちたる今も

絵 画

「王ヶ頭へ(美ヶ原高原)」

熊谷東 福島 智



「村社のさくら」

熊谷南 原口 一明



挿入画について

絵画同好会の福島智先生(熊谷東)に提供していただきました。「身近な風景や旅の思い出をテーマに『無』になって描く時に魅力を感じています」とのコメントをいただきました。

編集後記

会員皆様のご協力の下、ここに「おゝさと」第五十九号を発行することができました。一つ一つの言葉や一筆一筆に込められた思い、また、躍動感溢れる貴重な作品をお寄せいただき皆様には感謝申し上げます。

今号から新たな広報部員になりました。印刷業者も博文社さんが廃業したため東洋印刷さんに変わりました。今後とも執筆や作品提供のご協力をお願い致します。

令和7年度
広報部員

寺 沢	剛 (深谷中)
秋 元	敏行 (熊谷東)
飯 野	幸和 (熊谷中央)
戸 坂	和明 (熊谷西)
福 田	好伸 (熊谷南)
関 根	達郎 (熊谷北)
笠 原	直史 (熊谷北)
黒 澤	正之 (深谷北)
保 泉	清之 (深谷中)
	居 (寄)

埼玉県退職校長会大里支部会報

(第五十九号)

発行 令和七年八月一日

発行者 支部長 神谷 為義

印刷所 東洋印刷 株式会社

深谷市深谷町一―三三五

〇四八五七二〇五六七